岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2010・9　vol.408

●発行者―学長　小川 彰　●題字―理事長　大堀 勉

附属病院玄関前で行われた盛岡さんさ踊り出陣式（関連記事：P6）

〈写真撮影：画像情報センター　（8月1日17：10）〉

おもな内容

●― 特　集　総合情報センターの活動紹介　～情報システムの導入について～
総合情報センター長　澤井　高志

●― 連　載　電子カルテの導入について①　　病院事務部長　柳沢　茂人

●― トピックス　オープンキャンパス2010が行われる　／　医学部臨床教授等称号授与式が行われる

●― 総合移転整備計画第二次事業　進捗状況報告（1）

特集

総合情報センターの活動紹介
～情報システムの導入について～

総合情報センター長　澤　井　高　志

総合情報センターは、情報化の促進により、教育・研究及び医療の発展を目的として、平成13年１月に発足いたしました。発足後およそ10年を経過しましたが、その間にデータ記憶量の増大化やネットワークの大容量化、モバイル端末の普及とユビキタス化など、技術の進歩と普及は目覚ましく、誰もがICT（情報通信技術）とは無関係ではいられない状況になっております。

本学が今まで以上にICTを有効活用することで、情報処理および管理のいっそうの効率化が図られます。各部局の皆様にはこれまで以上に、ご理解とご協力のほど宜しくお願いいたします。

総合情報センターの活動紹介

総合情報センターは現在、センター長１名、副センター長５名、技師長１名、事務職員８名の体制となっています。業務内容は、諸制度や技術動向を考慮しつつ、情報システムの設計立案、関係部署と業者との折衝、全学的セキュリティ対策、利用者支援等を行っております。

システム開発の様子

システム開発サーバー管理の様子

また、本学のネットワークおよびサーバの構築、運用管理の他、業者パッケージの導入で適応できないケースや、費用対効果が望めない場合、総合情報センターでシステム開発を行うこともあります。

総合情報センターが開発したシステム例

総合情報センターがここ数年間で独自に開発に取り組んだシステムの主な事例をここでご紹介いたします。これらのシステムの構築には、関係部署からの貴重なご意見、ご協力が得られ実現にいたっております。

①　試薬管理支援システム（平成17年度稼動）

各講座および研究室が管理する試薬の管理をWEBで入力し、試薬管理簿として利用するとともに、入力したデータは、PRTR法などのコンプライアンスのための統計に利用できます。

②　シラバス作成システム（平成17年度稼動）

医学部のシラバス作成において、WEB入力でシラバス内容をデータベースに蓄積し、シラバスの原稿を作成できます。

③　物品請求システム（平成19年度稼動）

矢巾キャンパス開設に伴い、矢巾キャンパスからWEB入力による消耗品等の物品請求ができるようシステムを開発しました。

④　インシデントアクシデント報告システム（平成19年度稼動）

院内のインシデントアクシデント報告書をWEBで入力し、蓄積されたデータを統計や分析に利用することができます。

⑤　健康診断システム（平成19年度稼動）

本学の健康診断で、検体取違え防止機能、検査部システムとの連携、健康診断自動判定支援処理などを組み込んだシステムを開発しました。

⑥　**履修登録システム（平成19年度稼動）**

新入生がオリエンテーション時に選択科目を履修申請し、数日後には、履修登録が完了し、翌週には講義が開始できるような履修登録システムを構築しました。

⑦　**医療材料物流管理運用システム（平成20年度稼動）**

病棟における医療材料の請求業務において、従来の伝票に代わり、ハンディ端末による請求入力を行うことができるようにしました。

発注業務においては、用度課で WEB による発注や納品確認データの取得が可能になり、従来の各病棟の検品業務は、中央材料部に一元化することにより、検品業務の合理化を図りました。

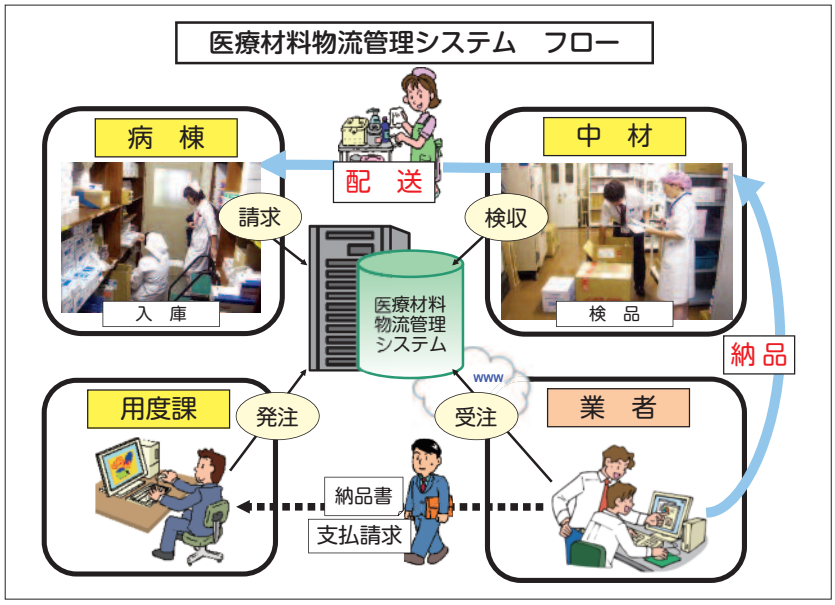


図１

検品業務においては、業者が当日納品分を WEB 入力し、作成する納品書により、検品業務を行うことができます。（図１参照）

⑧　**学生ノート PC 設定省力化ツール（平成21年度稼動）**

新入生所有のノート PC をオリエンテーション時に短時間で、本学教育環境（メール設定、ウイルス対策ソフト等）に適応させるための設定ができるよう、ツールを開発しました。

そのほか、総合情報センターが支援した事業のご紹介

①　**図書館システムリプレース（平成21年度稼動）**

図書館システムのサーバ機器老朽化に伴い、新図書館システムの導入支援および電子ジャーナルの学外アクセスを可能とするためのプロキシサーバの構築を行いました。同時に導入した機関リポジトリシステムの有効活用についても、図書館を中心として今後検討を進める予定です。

②　**先進的な教育環境の構築支援**

医学部の講義において、e-Learning と連携したバーチャルスライド教材の開発を行い、本学の先進的な教育環境の構築を支援しました。

平成22年度の事業計画には総合移転整備計画や次期病院情報システムの導入等、大きな事業が控えており、総合情報センターも本学の情報化促進の一翼を担って参ります。

情報システム導入時のポイント

情報システム導入を考えていく際、皆様に考慮いただきたい点を簡潔にまとめました。システム導入検討の一助になれば幸いです。

- システム導入の目的、メリット、デメリットを明確化する
- 情報管理者およびシステム運用方法を決定する
- 費用対効果などの指標により、システム導入が妥当か判断する材料をそろえる
- 情報として再利用するもの、共有するものをシステム化の対象とする
- 業務内容または情報構造で関連のある部署との連携を考慮する
- 従前の業務方式を改善する視点をもつ
- コンプライアンス、セキュリティを考慮する

電子カルテシステム導入に向けて ①
―本学附属病院の病院情報システムが変わります―

病院事務部長　柳　沢　茂　人

本学附属病院の病院情報システムは、平成14年４月に医科部門（救急センター・歯科医療センター入院含み）へオーダリングシステムが導入され各部門システムと連携していますが、歯科医療センター外来及び循環器医療センターは各部門システムが単独で運用されています。

医科部門オーダリングシステムの保守契約が平成23年３月末をもって終了することから、これを契機に附属病院全体を対象とした電子カルテシステムを導入することとしました。現在、平成23年２月の電子カルテ稼働を目指して、着々と導入準備が進行しておりますので、計画されているシステムの導入経緯と内容等について報告いたします。

なお、導入システムの詳細等については、次号以降でも随時報告いたします。

電子カルテシステムとは

電子カルテシステムは、電子カルテとそれに連携したオーダリングシステム、そして検査部門や薬剤部門をはじめとした多くの支援部門システムから成っています。このシステムの中心となるのが電子カルテです。従来紙カルテに記載されてきた戸籍情報（患者基本情報）、医師が記載してきた診療記録、検査記録、画像情報など患者さんに附随して発生する診療に必要な各種の情報を電子的に統合管理・記録するシステムを指します。

しかしながら、全てペーパーレス化することは経済的にも、費用対効果面からも難しく、何を電子化し何を紙運用のままとするか、十分な検討が必要となります。

電子カルテシステム導入経緯

医科部門のオーダリングシステム更新と診療情報の一覧性の必要から、平成20年度より大学内の基幹会議に諮りながら検討を進め、平成21年10月の運営協議会及び理事会において、データの継続性や大規模病院の導入実績及び経済性を評価し、富士通の電子カルテシステム「HOPE／EGMAIN－GX」を基幹システムとした病院情報システムを導入することが承認されております。

今回の導入は、医科、救急センター、歯科医療センター、循環器医療センターを対象とした電子カルテシステムの構築を計画するものです。

電子カルテシステム導入目的とコンセプト

附属病院は増築を重ねて規模が拡大されてきたため、いろいろな機能があちこちに分散しており、患者さんの受付窓口（検査部、薬剤部、放射線部等）も部署ごとに置かれ、必然的にカルテは診療科毎の管理とされております。このような体制は患者さんにとって大変分かりにくく、病院運営においても効率の悪いものであります。全国的には重複検査や投薬を防ぐためにも、「１患者１カルテ」とする患者情報の一元管理が推進されており、附属病院においても求められているところです。しかしながら附属病院においては紙ベースでの「１患者１カルテ」とする集中管理化は、建物の構造上からも不可能であるため、一気に電子カルテシステムの導入に踏み切り、この課題を解決し一覧性を実現するとともに、各種業務の省力化・効率化を目的とするものです。

さらに、電子カルテから得られた情報を蓄積・分析することにより、病院の経営管理支援を目指すものです。また、導入にあたってのコンセプトとして、病院内での基本的な日常作業は施設間でそれほど大きな違いはないとの観点から、従来型の「オーダーメイドシステム」ではなくパッケージ化されたシステムをそのまま利用し、「パッケージ機能を使いこなす」ことを原則としております。

電子カルテシステム導入検討体制

電子カルテシステムの導入にあたり、システム運用及び機能の確認、採用検討、決定については図１の体制で行なうこととし、現在のオーダリングシステムと各部門システムとの比較を行い、継続可能な部分と変更すべき点の見極め、原則として医科部門、歯科医療センター、循環器医療センターで同一運用することを中心に検討することとしております。

図１

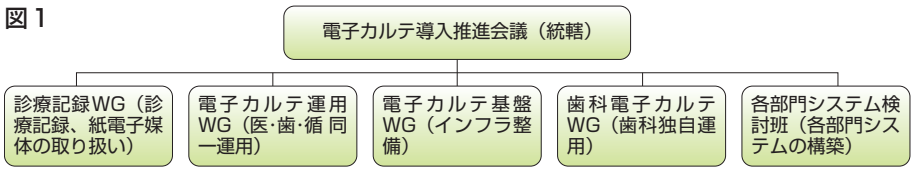
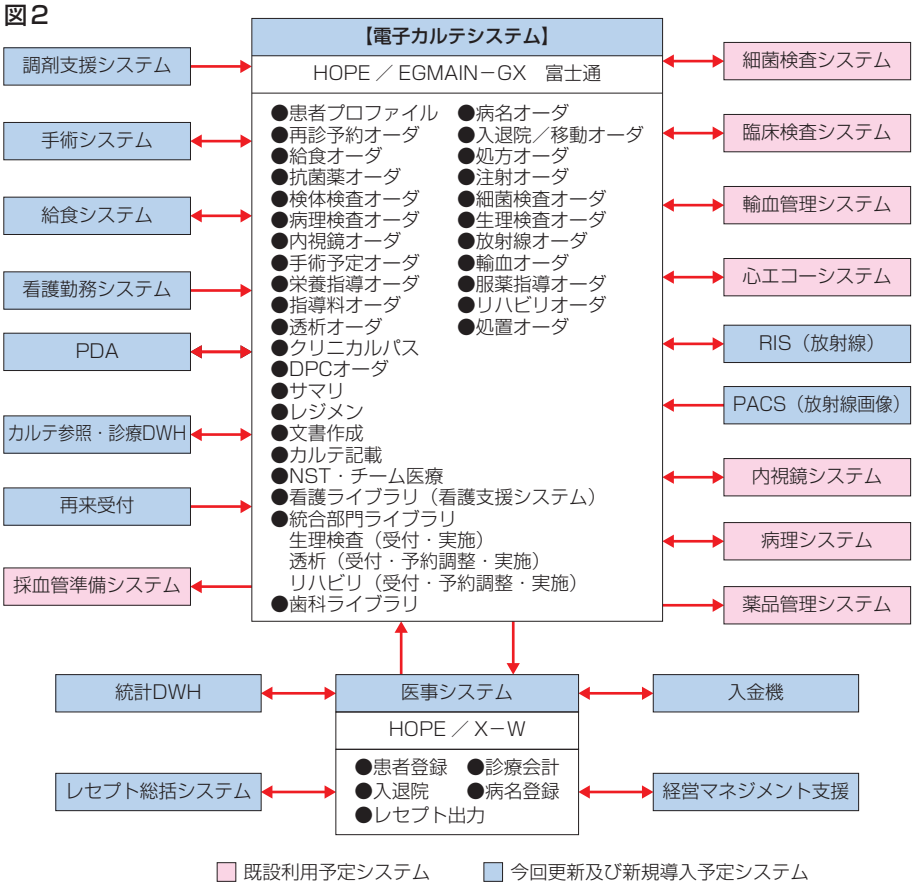


図２



導入予定の電子カルテシステム全体概要

導入予定の電子カルテシステムは図２の富士通 EGMAIN－GX を基幹とし、薬剤部、検査部、放射線部、医事等の部門システムの連携により、フルオーダリング化と診療録を原本とする電子カルテ記載を行なうものです。

主なハード構成は、電子カルテ端末1,230台（デスクトップ型1,000台、ノート型230台）PDA（携帯情報端末）80台、プリンタ400台、スキャナ100台、画像配信モニター300台、高精細ビューア25台となります。

電子カルテシステム導入スケジュール

※これらと並行して、電源及び LAN 配線の工事が各部署で行なわれ、全体リハーサルは平成23年１月中旬を予定しています。

内　　容	6～8月	9月	10月	11月～1月	2月
運用フロー（患者導線、業務内容）の決定	→	→			
システムコード登録・整備（病院の施設基準関係）	→	→			
新運用案の周知・調整		→	→		
端末操作教育カリキュラム			→	→	
電子カルテ端末展開				→	
リハーサル（各部署単位）				→	
電子カルテシステムの本稼働					→

電子カルテシステム導入にあたってのお願い

来年２月１日からの電子カルテシステム本稼働をスムーズに行なうためには、システムの理解と操作の習熟が重要となります。医師、歯科医師をはじめとした関係職員は、積極的に説明会や操作訓練に参加するようお願いいたします。また、電子カルテの大部分は統一されたレイアウトになりますが、よりスムーズな操作環境にするため各診療科特有の「指導料」「処置」「予測指示」「病名」等についてシステムコードの登録が必要となりますので、各診療科で項目（頻回使用及び独自項目）の抽出をしていただきますので、ご協力の程よろしくお願いします。

Topics

オープンキャンパス2010が行われる

調剤体験をする高校生

７月31日㈯、８月１日㈰の両日、矢巾キャンパスと内丸キャンパスにおいて「オープンキャンパス2010」が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から高校生とその保護者ら合わせて約770名が参加しました。

当日は、小川学長による大学紹介、希望する学部に分かれてのミニ講義や体験実習が行われました。また、学食の無料体験、在学生とのフリートーク、教員による個別相談やキャンパス・学生寮の見学など盛りだくさんの企画が用意され好評を博しました。

白衣に袖を通し実際に手術などの模擬体験をした高校生らは、大学生活に夢や希望を膨らませていた様子で、本学の特色を理解してもらうとともに、将来の進路を決めるための有意義な機会となったようです。

「盛岡さんさ踊り」に参加しました

日本一の太鼓パレードと称される「盛岡さんさ踊り」が８月１日㈰から４日間にわたり開催され、本学グループは初日のパレードに参加しました。

当日は、パレード前に本学附属病院外来玄関前で出陣式が行われ、職員らが患者さんに踊りを披露しました。

その後のパレードでは、大堀理事長を筆頭に総勢約230名が中央通りの約１キロの区間を練り歩き、盛岡さんさ踊り第３番の「栄夜差踊り（えいやさおどり）」を披露し、沿道に詰め掛けた観客や大学関係者からの歓声に応えていました。

なお本学の出場は、今年で連続29回目となります。

医学部臨床教授等称号授与式が行われる

平成22年８月９日㈪午後５時10分から、創立60周年記念館10階会議室において、本学医学部では初めてとなる臨床教授等称号授与式が行われました。この式は、本学医学部の臨床実習及び卒後臨床研修に協力・連携する医療機関の優れた医師等に対して称号（臨床教授、臨床准教授、臨床講師）を授与し、臨床実習や卒後臨床研修を更に充実させることを目的としています。

授与式では、県内外の医療機関で病院長や副院長等を務める総勢24名の医師に対して称号が授与され、小川学長が「県民の医療を守るためには、地域で連携して優秀な医師を育てていくことが重要であるので、これからも教育に力を発揮していただきたい」と式辞を述べ、続けて鈴木医学部長、小林病院長も式辞を述べました。

これを受け、称号を授与された医師一人ひとりが、感謝の言葉と学生及び研修医の教育・指導に対する抱負を述べられました。本授与式を契機に、県内における医育体制が今後向上していくことが期待されます。

称号被授与者

●臨床教授

阿部　正（岩手県立久慈病院　院長）
伊藤　達朗（岩手県立千厩病院　院長）
遠藤　秀彦（岩手県立釜石病院　院長）
小笠原　敏浩（岩手県立大船渡病院　副院長）
勝又　宇一郎（岩手県立胆沢病院　副院長）
加藤　博孝（岩手県立磐井病院　副院長）
菅野　千治（岩手県立宮古病院　院長）
貴田岡　博史（岩手県立遠野病院　院長）
北村　道彦（岩手県立中部病院　院長）
郷右近　祐司（岩手県立胆沢病院　副院長）
小岡　文志（岩手県立江刺病院　院長）
佐藤　昌之（岩手県立二戸病院　副院長）
佐藤　元昭（岩手県立二戸病院　院長）
佐藤　元美（国保藤沢町民病院　院長）
瀬尾　喜久雄（八戸赤十字病院　院長）
高橋　弘明（岩手県立中央病院　医療研修部次長）
田村　乾一（岩手県立中部病院　副院長）
松本　登（岩手県立胆沢病院　院長）
松谷　富美夫（かづの厚生病院　院長）
宗像　秀樹（岩手県立久慈病院　副院長）
村井　啓子（盛岡赤十字病院　副院長）

●臨床准教授

及川　公生（岩手県立中部病院　医療研修科長）
小山田　尚（岩手県立大船渡病院　第一外科長）
菅原　俊道（岩手県立宮古病院　第一外科長）

※敬称略、授与番号順（五十音順）に掲載

第31回市民公開講座が開講されました

熱心に講義に参加する市民の皆さん
（教養講座「近代の戦争と文学」）

今年で31回目を迎える市民公開講座（健康講座・教養講座）が８月16日㈪から20日㈮までの５日間、矢巾キャンパス講義室にて行なわれ、約950名の市民の皆さんが参加しました。この市民公開講座は、大学開放活動の一環として行われているもので、健康管理に関する知識と生活の向上に資することを目的としています。

「健康講座」は、私たちの生活が明るく健康でより豊かになることを願って開設され、「教養講座」は、毎日の生活を本当に豊かにするために、生涯学習の一環として本学の講義の一部を公開するものです。

参加者はメモを取りながら熱心に受講され、貴重な学習の機会となったようです。

男の音楽

医学部教務課　事務員　吉田　零

緊張に弱い私は音楽が大の好物であると同時に、人前での楽器演奏が大の苦手である。しかし、そんな私も年に一度演奏者として身を寄せるコンサートがある。それが「男子ピアノコンサート」だ。

このコンサート、ただの演奏会ではない。名が表すとおり出演者は男性限定、それだけでなく主催者・スタッフ・実行委員全てが男性のみで構成されている。まさしく「男性の男性による男性のための」コンサートである。むさくるしい演奏会だが、当日の女性の入場についてはもちろん歓迎だ。曲目もショパンから始まり、Final Fantasy、ジャズ連弾など分野が幅広い。また、ピアノコンサートと銘打ってはいるが、楽器ならバイオリンやギターでも良い。演奏方法も女性にはあまり見られない力強い弾き方で視覚的にもなかなかに楽しめる。

私も大学時代には実行委員長として同コンサートを運営し、好評を博した。その際には非常にたくさんの人々（男）の助力を得、周囲の人間から顔も知らない人まで、大きな人の輪を感じた。音楽とは演奏する喜びだけでなく、このような新しい人とのつながり、皆で協力する喜びまで与えてくれるものなのかと感動を覚えたものだった。

楽器奏者の人口は、男性よりも女性の割合が高いのが一般的である。私が大学時代所属していた音楽科も女８：男２といった割合だった。男性にとっては、少々入り辛い分野という印象は否めない。そんな中で、「俺たちだって音楽しているんだ！」「男だってもっと音楽しようよ！」そんなメッセージを込めて開催する同コンサート。この素晴らしい機会をいつまでも大切にしていきたい。

バイオリン演奏者が筆者

お知らせ　医療情報提供テレビ番組「健康大百科」

岩手県内の医療情報を県民に広く周知させることを目的として「健康大百科」と題した医療情報提供番組がテレビ岩手で放送されています。この番組は、本学附属病院の診療科等が全面的に取材協力しているもので、本年６月から毎月放送されていますので是非ご覧ください（放送日時：毎月最終土曜日（予定）、午前10時～午前10時30分）。

また、既に放送が終了した番組についても、テレビ岩手のホームページ（http://www.tvi.jp/health/）でダイジェスト番組を公開していますので、ご覧ください。

○テレビ番組予定表　※10月以降の放送順は未定です。

放送回	放送日	診療科等	テーマ
第１回（放送済）	平成22年６月26日㈯	泌尿器科	放射線科医とタイアップした泌尿器科治療
第２回（放送済）	７月31日㈯	整形外科	側弯症治療について
第３回（放送済）	８月28日㈯	外科	体に優しい最先端医療について
第４回（放送済）	９月25日㈯	神経内科	認知症の理解
第５回	10月30日㈯	耳鼻咽喉科	人工内耳について
第６回	11月27日㈯	小児科	小児難病と闘う医師たち
第７回	12月25日㈯	呼吸器外科	肺癌の完全胸腔鏡下手術について
第８回	平成23年１月29日㈯	歯科	デンタルインプラントによる口腔機能回復
第９回	２月26日㈯	循環器	心臓病の克服に立ち向かう循環器医療チーム
第10回	３月26日㈯	睡眠医療科	眠りと心の健康について
第11回	４月30日㈯	糖尿病	CGMS：連続血糖測定装置について
第12回	５月28日㈯	ミニドック	気軽な健康チェック・ミニドック

理事会報告

■７月定例（７月27日開催）

１．睡眠医療学科設置に伴う教育職員定員表の一部改正について

平成22年７月１日付で医学部医学科に睡眠医療学科が新設されたことに伴い、医学部臨床系講座教育職員定員表に専任准教授の講座（学科）定員を新設

（施行年月日　平成22年７月１日）

２．大学院授業料の改定及び大学院学則の一部改正について

大学院進学者をより多く確保することを目的として、大学院学則の一部を改正

＜改正概要＞

修士課程の授業料を375,000円に、博士課程の授業料を425,000円に引き下げ、併せて講座研究費の配分額について、修士課程を100,000円、博士課程を150,000円とすることとした。

（施行年月日　平成23年４月１日）

第77回大学報編集委員会

日　　時：平成22年９月16日(木)午後４時～午後５時

出席委員：大堀委員長、影山、松政、齋野、藤本、佐藤、千田、佐々木(志)、佐々木(光)、赤松、佐々木(忠)、中島、岩動、武藤、野里

欠席委員：山崎、小山、佐々木(さ)、米澤

編集後記

今月号の特集及び内容に、総合情報センターの活動紹介と電子カルテシステムの導入に関するものがございます。本紙を通じて、本学が現在の情報化社会の時代にいかに取り組んで対応していこうと考えているか感じ取っていただければ幸いです。今後も引き続き電子カルテシステムの導入に関する進捗状況は随時掲載していく予定です。また、最終紙面に、現在着々と工事が進んでいます矢巾移転の進捗状況の写真が載っています。これにつきましても随時掲載して行く予定です。

（編集委員　齋野　朝幸）

岩手医科大学報　第408号
発行年月日　平成22年9月29日
編　集　岩手医科大学報編集委員会
事務局　企画部　企画課
盛岡市内丸19 - 1
TEL 019-651-5111（内線7022）
FAX 019-624-1231
E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp
印　刷　河北印刷㈱　盛岡市本町通2 - 8 - 7
TEL 019-623-4256
E-mail:office@kahoku-ipm.jp

総合移転整備計画第二次事業進捗状況 No.1

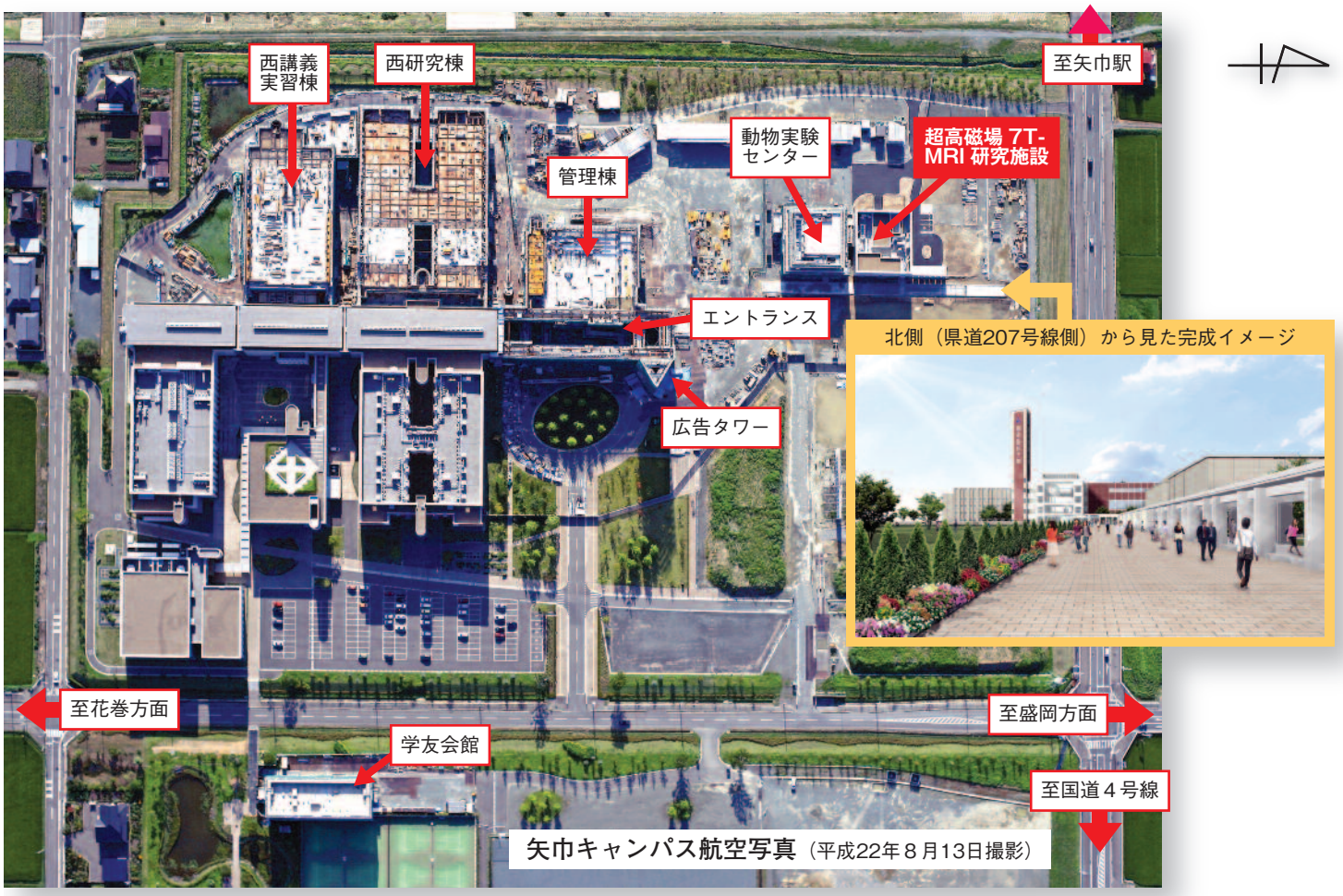
総合移転整備計画第二次事業は、建物の外観が掴めるまでに順調な建築工事が行われています。その中でも国際的な医療研究施設として期待される「超高磁場 7T-MRI 研究施設」は、８月31日に建物工事が完了しました。同施設は、これから機器等の整備・調整期間を経て、平成23年１月から本格的な稼働となる予定です。

建築工事が完了した超高磁場 7T-MRI 研究施設

建物構造	
●鉄筋コンクリート造、地上２階建	
●建築面積	約680㎡
●延べ床面積	約880㎡
●遮蔽シールド	約400ｔ

7T-MRI 装置は、世界各国において十数台しか導入されておらず、国内においても本学が２例目となり、世界有数の MRI 研究施設が本学に整備されることになります。将来的に本研究施設は、脳卒中や認知症などの脳神経疾患や、うつ病などの精神疾患に対する病態解明に大きく貢献するものとして期待が寄せられます。
※T（テスラ）とは、磁気の強さを示す単位。

土台部分が床上に固定された 7T-MRI 研究機器



矢巾キャンパス航空写真（平成22年８月13日撮影）